令和7年度 自己評価表

<p>中長期目標 (学校ビジョン)</p>	<p>1ランク上を目指す進学指導・就職指導を柱として、地域連携や探究学習、語学学習を推進し、基本的生活習慣の確立、部活動の活性化によって自律心と自己有用感を育み、主体性と創造性を伸ばす。</p>	<p>今年度の重点目標</p>	<p>1 確かな学力の育成 2 豊かな人間性の育成 3 自己実現のための進路指導の充実 4 地域との連携による学校づくり 5 業務カイゼンへの取組</p>
---------------------------	---	-----------------	---

年 度 当 初				評 価 結 果 () 月			
評価項目	評価の具体項目	現状	目標(年度末の目指す姿)	目標達成のための方策	経過・達成状況	評価	改善方策
1 確かな学力の育成	○学力の向上 ・基礎的・基本的な知識及び技能の習得 ・思考力・判断力・表現力及び情報活用能力の更なる育成 ・主体的・対話的で深い学びの実現	<ul style="list-style-type: none"> ICT活用について教員間の個人差がある。 生徒のChromebookが十分に活用されていない。 検定受験を促し、上位資格(1・2級)の合格率は、英語検定17%、情報処理検定62%、ビジネス文書実務検定60%、保育検定65% 簿記検定に向けての講習を行って支援したが、2級取得とはならなかった。 学校独自事業について継続事業の見直しと新規企画の検討を行った。 スタディサプリは、夏季休業中活用率が、1年次生67%、2年次生60%、3年次生15%。 2月にスタサプウィークを実施し、活用を行った。 家庭学習時間調査で、1日平均1時間強と目標には大きく足りていない。 朝読書の指導は行っているが100%の取組にはなっていない。 	<ul style="list-style-type: none"> 組織的な授業改善 BYADに伴った更なるICT活用 	<ul style="list-style-type: none"> 校内や教科内でGoogle Workspaceやスタディサプリの活用、ルーブリック評価等について情報共有やICT支援員等による研修を行う。 Google ClassroomやCANVA等を活用し、生徒のChromebookの利活用を増やす。 			
			<ul style="list-style-type: none"> 各系列の特色化と資格取得の促進 資格試験合格率70%以上 	<ul style="list-style-type: none"> 系列ごとの各種資格・検定の受験を促し、進路実現に向けて支援する。 各種検定の合格に向けて、放課後等の個別学習を継続する。 資格取得のための意欲を向上するために目標を立て、進路での活用意識向上を図る。 			
2 豊かな人間性の育成	○基本的生活習慣の定着	<ul style="list-style-type: none"> あいさつをする生徒が増えた。 自転車通学生のヘルメット着用率は依然として50%程度である。 服装をはじめとする校則に対する規範意識が低い生徒が多く見られる。継続した声掛けを行っているがなかなか改善していかない。 全体として、12月末現在の欠席者は前年比86%、遅刻者は88%である。 遅刻者数は年度末にかけて減少し、安易な遅刻は減らすという意識が高まっている。 授業中に落ち着かない生徒が数名いて、対応が難しい場面がある。 毎日、巡回指導を行っている。 姉妹校への短期留学が再開し、定期的な交流が行われるようになった。 ボランティアは個人や部活動単位での参加があり推進できた。 生徒の委員会活動と連携したあいさつ運動を行った。 	<ul style="list-style-type: none"> ルールを守って、けじめのある生活を送ることができる。 遅刻をせず、1日のスタートがしっかりできる。 	<ul style="list-style-type: none"> 身だしなみ、礼儀に対する日常的な指導と声かけを行う。 朝の服装指導週間を実施する。 掃除、整理整頓の徹底と時間管理、挨拶の励行 生徒会執行部・生活委員及びPTAであいさつ運動を行い、生徒が主体的に行動できる力を身に付けさせ、自治能力を高める。 朝読の定着とともに、5分前行動を励行する。 進路指導と関連づけ、安易な遅刻・欠席を減らし、皆勤を奨励する。 遅刻確認表による遅刻指導の徹底と保護者との連携 			
			<ul style="list-style-type: none"> 制服の着こなしについての生徒の意識の高揚 	<ul style="list-style-type: none"> 職員全体で服装指導に対する共通認識を持ち、朝の声掛け運動などがスムーズにおこなえる体制をつくる。 生徒登校時に昇降口での声掛けと合わせて服装指導をおこなう。 			
			<ul style="list-style-type: none"> 生徒が中心となった学校活動の運営 	<ul style="list-style-type: none"> 引き続き、卒業後の社会人としてのマナーを意識した指導を行う。 着こなし講習、デジタルシチズンシップ講演など外部との連携により生徒の意識を高める。 			
	○生徒の主体的活動の推進(国際交流・部活動)	<ul style="list-style-type: none"> 安全意識の高揚 遅刻者数を前年比10%減少 ヘルメットの着用率70%以上 	<ul style="list-style-type: none"> 交通安全週間に合わせてヘルメット着用指導を実施する。 生徒同士で呼びかける場面を設定する。 自転車運転での交通ルールやマナーを意識させる指導を継続して行う。 				
			<ul style="list-style-type: none"> 部活動への積極的な参加 校内外の様々な活動に取り組む生徒の増加 	<ul style="list-style-type: none"> 部活動に継続的に取り組むよう日常的に声かけを行う。 部活動加入の促進や生徒会行事等の活動充実 生徒の活動を紹介することによる参加意欲の喚起 国際交流した生徒には、他の生徒への還元の機会を設ける。 姉妹校との国際交流の継続 他生徒への還元の機会の設定(報告会等) 			
			<ul style="list-style-type: none"> ボランティア活動の推進 	<ul style="list-style-type: none"> 引き続き、あいさつ運動等執行部を中心として生徒への参加呼びかけを行う。 			
○支援が必要な生徒への援助	<ul style="list-style-type: none"> 個別の面談や保護者との面談・連携をとおして情報を共有し、生徒が学校生活を続けられるように適切な支援に努めた。 特別支援教育に関する校内研修、情報共有を予定通り実施した。 外部関係機関との連携を図っている。 学校生活アンケートで、自己肯定感が高い生徒が85%を超えている。 生徒が主体的に人権教育に関する調べ学習やテーマ学習を行い活動することができた。 	<ul style="list-style-type: none"> 個別の面談や各種アンケートを通じて、生徒の困り感を把握し、適切な助言を行う。 日常的に情報を共有し保護者と連携する。 教育相談に関する校内研修、各種委員会での情報共有、外部関係機関との連携による適切な対応 	<ul style="list-style-type: none"> 本人のニーズを把握し、特別支援教育に関する校内研修、情報共有、外部関係機関との連携により、適切な支援、対応を行う。 生徒個々に対応したきめ細かい支援の実施 				
		<ul style="list-style-type: none"> 生徒情報を教員間で共有・把握し、適切な支援ができる。 豊かな人間関係を築き、生きる力を育む。 学校生活アンケートで自己肯定感が高い生徒が90% 	<ul style="list-style-type: none"> 課題を明確にし、生徒が主体となり活力のある人権学習を構築する。 人権学習委員が主体となって活動できる人権教育LHRを運営する。 				

3 自己実現のための進路指導の充実	○探究学習の充実	<ul style="list-style-type: none"> 「探究学習」にSDGsの視点を導入することで全学年の系統的なキャリア教育の構築に努めている。 「産業社会と人間」から「総合的な探究の時間」の系統性を意識した取り組みが進んだ。 岡山夢育PBLフォーラムに参加し、今後の研究発表や研究内容について検討した。 スタディサプリの4月からの1人あたりの平均視聴時間は1年次生53分、2年次生131分、3年次生64分だった。 令和6年度は、大学進学39名(内国公立7名)の結果であり、就職は32名(内公務員1名)であった。 早期の意識づけを行うために2年次の1月に進路ガイダンスをコンベンションセンターにて実施した。 岡山への先進校視察を実施し、探究活動の取組について学んだことを反映し、外部との連携を強化した。 少ないながら公務員講座や夏期・冬期講習への参加生徒が増え、進路意識に改善の兆しがみられる。 担任による提案型を意識した面接を行うことができた。 学習成果発表会の発表内容が斬新さに欠ける。 	<ul style="list-style-type: none"> 進路実現に向けて主体的に努力し学びに取り組む態度の育成 学習成果発表会の発表内容の充実 	<ul style="list-style-type: none"> 「産業社会と人間」、「総合的な探究の時間」の系統的な探究学習の深化と進路希望とのリンク 地域と連携した探究学習の在り方を模索する。 大学との連携 より積極的な外部との連携および先進校、先進地域的手法を取り入れた探究活動の充実 			
	○キャリア教育の発展	<ul style="list-style-type: none"> スタディサプリの4月からの1人あたりの平均視聴時間は1年次生53分、2年次生131分、3年次生64分だった。 令和6年度は、大学進学39名(内国公立7名)の結果であり、就職は32名(内公務員1名)であった。 早期の意識づけを行うために2年次の1月に進路ガイダンスをコンベンションセンターにて実施した。 岡山への先進校視察を実施し、探究活動の取組について学んだことを反映し、外部との連携を強化した。 少ないながら公務員講座や夏期・冬期講習への参加生徒が増え、進路意識に改善の兆しがみられる。 担任による提案型を意識した面接を行うことができた。 学習成果発表会の発表内容が斬新さに欠ける。 	<ul style="list-style-type: none"> 大学進学40名以上(内国公立10名以上) 教員の進路指導力の向上とスタディサプ利用いた学力向上 進路目標に対する具体的な取組(校外模試受験者の増加等) 	<ul style="list-style-type: none"> スタディサプ利用による学習意欲の喚起と主体的な学習態度の育成 自らの成長を実感できる取組として、キャリアパスポートを活用した進路指導を実施する。 これまでの活動内容をフィードバックし、研究成果の充実のための新たな取組を検討する。 			
	○進路指導の充実	<ul style="list-style-type: none"> 岡山への先進校視察を実施し、探究活動の取組について学んだことを反映し、外部との連携を強化した。 少ないながら公務員講座や夏期・冬期講習への参加生徒が増え、進路意識に改善の兆しがみられる。 担任による提案型を意識した面接を行うことができた。 学習成果発表会の発表内容が斬新さに欠ける。 	<ul style="list-style-type: none"> 外部講師による公務員講座の充実と放課後学習会の実施 1年次生、2年次生に対して早期から進路指導・キャリア教育の充実を図る。 進路ガイダンスの前倒しによる進路実現活動の早期化 校外模試受験者の増加 チーム担任制を活用したきめ細かな進路面談の実施 各種職場体験の実施による確かな就職先選び 担任によるきめ細かい面接指導と情報発信 探究学習の充実による進路保障 進路情報について知識が不足している生徒が多いことを鑑み、提案型進路指導面接を強化する。 				
4 地域との連携による学校づくり	○地域のニーズに応じた地域貢献	<ul style="list-style-type: none"> 地域との連携により学校への信頼、期待がなされている。 ボランティア体験事業、中海清掃、皆生トライアスロンボランティアなどのボランティア活動に多くの生徒が参加をしている。 3年次生「ファッション造形」の授業では新たに尚徳小学校を訪問し、5年生家庭科の裁縫授業の支援を行った。 中学校(9校)に高校生出前キャリアガイダンスを実施、小学校(1校)に高校紹介ガイダンスを実施した。 「出かける体験入学～トトリハイスクールアドベンチャー～」に参加し、本校の魅力を発信した。 情報発信については、ホームページの更新を迅速に行うことができています。 新たな取組として、美術・漫画研究部がYouTubeで交通安全ワークショップでの作品制作の様子をUPした。 	<ul style="list-style-type: none"> 地域の魅力を再確認し、地域の更なる活性化に向けて具体的な行動を起こす生徒の増加 文化芸術活動、系列での事業、総合的な探究の時間を通じた地域のニーズへの対応 地域連携による自己有用感・自己肯定感の醸成 	<ul style="list-style-type: none"> 部活動における各種イベントの企画・開催と参加(ハイホット・ダンスフェスティバル、施設訪問、書道パフォーマンス) 部活動単位におけるボランティア活動等地域への参画 系列事業、総合的な探究の時間における活動で地域貢献を促進(イチゴ栽培・収穫交流、花壇用草花植栽活動、夢蔵プロジェクトとの連携) ボランティア体験事業、中海清掃、皆生トライアスロンボランティアなどの情報を生徒に提示し、参加を呼び掛ける。 			
	○積極的な社会参画と情報発信	<ul style="list-style-type: none"> 中学校(9校)に高校生出前キャリアガイダンスを実施、小学校(1校)に高校紹介ガイダンスを実施した。 「出かける体験入学～トトリハイスクールアドベンチャー～」に参加し、本校の魅力を発信した。 情報発信については、ホームページの更新を迅速に行うことができています。 新たな取組として、美術・漫画研究部がYouTubeで交通安全ワークショップでの作品制作の様子をUPした。 	<ul style="list-style-type: none"> 社会に繋がる教育活動を推進 ホームページの充実 	<ul style="list-style-type: none"> 校外実習、高校生出前キャリアガイダンス等地域社会との繋がりによる生徒活動の活性化 生徒の活動を地域に発信し、地域のニーズにも積極的に応えていく。 マスコットキャラクターや総合学科の特色ある取組を活用した各種イベントへの積極的参加 総合美術展、学習成果発表会の開催による情報発信 ホームページで総合学科の魅力(生徒の主体的な取組と成果)を発信 職員全員が記事をアップする。 PTA、学校運営協議会の取組をホームページにアップする。 			
	○業務の見直しによる時間外業務の削減及びその他の業務時間の確保	<ul style="list-style-type: none"> 各分掌の業務内容・業務分担の見直しと他分掌との連携を進めた。 運動部外部指導者、部活動指導員、文化部活動地域専門指導者により顧問の時間外業務の削減、活動の支援等につながっている。 月末でのセルフチェックの呼びかけを実施し、業務時間の意識を高めている。 共有ファイルの活用、教員業務支援員との連携の意識は高まりつつあるが、個人差があり、継続して取り組む必要がある。 教員業務支援員との連携を行った。 管理職が長時間勤務者に対して、声かけや資料配付を行った。 帰らぬDAY、リフレッ週、対外業務停止日、年休取得推進月間を可視化して設定し、年休取得の促進を図った。 令和6年度の時間外業務実績は、平均22.0時間で前年度の平均20.3時間を上回り、目標の前年度比10%減は達成できなかった。 	<ul style="list-style-type: none"> 時間外業務時間の前年度比5～10%減 一ヶ月の時間外勤務30時間以内 	<ul style="list-style-type: none"> チーム担任制の効果的運用の検証 時間外業務削減に向けて、全職員が実態を把握し具体的な取組について検討する。 勤怠システムのセルフチェック、時間外勤務時間を翌日に入力することで意識付けを行う。 部活動顧問の時間外業務の削減(外部指導者、部活動指導員との連携) ICTの活用 			
5 業務カイゼンへの取組	○声かけによるサポート	<ul style="list-style-type: none"> 共有ファイルの活用、教員業務支援員との連携の意識は高まりつつあるが、個人差があり、継続して取り組む必要がある。 教員業務支援員との連携を行った。 管理職が長時間勤務者に対して、声かけや資料配付を行った。 帰らぬDAY、リフレッ週、対外業務停止日、年休取得推進月間を可視化して設定し、年休取得の促進を図った。 令和6年度の時間外業務実績は、平均22.0時間で前年度の平均20.3時間を上回り、目標の前年度比10%減は達成できなかった。 	<ul style="list-style-type: none"> 長時間勤務者の把握と対策 分掌業務の効率化 休暇を取得しやすい環境づくり 	<ul style="list-style-type: none"> フォルダに関する整理整頓 共有ファイルの活用・ダブルチェック・連絡方法の工夫 業務内容の点検 教員業務支援員との連携 業務に対する意識改革(長時間勤務者への声かけ) 休暇を取得しやすい職場づくりに努める。 帰らぬDAY(定時退勤日)、リフレッ週、対外業務停止日、年休取得推進月間の設定 			